

## 平成26年度予算案

# 総額1兆3千億円の大型予算

### ~今年度より3.1%増額

(事務局)

川崎市議会でも平成26年度予算の審議が始まりましたね。

(堀添)

はい。今回の予算は福田紀彦市長にとって初めての通年予算となりますので、昨年表明された施政方針をどのように具体化していくのか、これからの4年間の方向性について議論が行われています。

(事務局)

平成26年度予算の特徴について、どう感じられていますか。

(堀添)

平成25年度当初予算では、前年度に比べ495億円の税収増を見込んでいました。今回も法人市民税で32億円、個人市民税11億円、固定資産税も31億円の増などにより、市税収入は78億円の増となっており、減債基金からの新規借入なしに当初予算が編成されたことなど、明るい兆しが見えたと思います。

他方で、財政の硬直性を示す「義務的経費」の割合は、今年度よりもさらに増えています。内訳を見ると、職員人件費は30億円の減、公債費も24億円の減となっていますが、福祉にかかる扶助費は58億円増えており、結果的に義務的経費の増となっています。扶助費の中では、保育所待機児童対策などによる児童福祉費が37億円増えているのが目立ちますが、社会福祉費、老人福祉費、生活保護費なども16億円の増となっており、こうした傾向は今後も続くものと思われます。

(事務局)

具体的な歳出面ではどのような特徴がありますか。

(堀添)

認可保育園の増設等により約3千名の定員増や認可外保育施策の充実による待機児童対策や中学校完全給食の導入に向けた方針の策定など、これからの市政の方向を感じさせる中身も含まれています。いずれにしても、予算議会をはじめ丁寧に議論を重ねる必要があると思います。

(事務局) ありがとうございました。



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 民主党神奈川18総支部 常任幹事
- 民主党神奈川県政策委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住

## 川崎市の平成26年度予算案

	平成26年度	平成25年度	対前年比
一般会計	6,171億円	5,984億円	+3.1%
特別会計	4,821億円	4,914億円	△1.9%
企業会計	2,366億円	2,062億円	+14.8%
	1兆3,359億円	1兆2,961億円	+3.1%

※ 億円未満を切り捨てているため、合計欄は一致しません。

## 高津区における主な事業

川崎市民プラザ施設整備：	9,045万円（ボイラー改修、等）
大山街道ふるさと館施設整備：	2,113万円（空調機改修、等）
わくわくプラザ施設整備：	9,612万円（子母口小、久末小、梶ヶ谷小、等）
民間保育所の整備：	1億8,096万円（諏訪保育園跡地他 90人）
鉄道事業者活用型保育所整備：	7,314万円（1か所 60人）
かわさき北部斎苑改修：	2億6,035万円（火葬炉の改修、等）
歩道設置：	1,700万円（県道子母口綱島ほか1路線）
交差点改良：	1,742万円（交差点カラー化、等）
大規模補修事業：	1億1,900万円（溝口駅前広場エレベーター改修）
自転車等駐車場整備：	4億 772万円（溝口駅南口地下、等）
公園防災機能向上：	1,533万円（緑ヶ丘霊園ソーラ式公園灯、等）
緑ヶ丘霊園の整備：	4,731万円（霊園内トイレ改築工事、等）
南武線アクセス向上等整備：	1億8,463万円（津田山駅橋上駅舎化工事、等）
公営住宅の整備：	13億8,134万円（末長104戸、久末69戸）
救急車両の整備：	3,297万円（高規格救急自動車1台）
校舎の建築：	37億5,088万円（子母口小・東橋中の合築）
校舎の建築：	3,089万円（久末小校舎増築等設計）
校舎の改修：	2億6,016万円（久末小学校校舎改築設計・工事）
高津図書館書庫改修工事：	1,615万円（書庫リニューアル）
上下水道関連施設等の整備：	7億9,723万円（排水管布設替、野川伏越ポンプ場）

### 連載コラム 川崎と高津の地名（No.18）

参考：上田恒三著「高津村風土記稿」  
日本地名研究所編「川崎の町名」

#### 「野川」の由来

野川の地名は、影向寺十二神将のうちの一体の頭部に「武蔵野河郷」という文字が残っており（享禄4年／1531年）、また「小田原衆所領役帳」（永禄2年／1559年）には「小机野川」と記されていますので、遅くとも室町時代には地名として使われていたようです。

由来としては、南北の丘陵の間を流れる矢上川のことか「野川」と呼ばれ、それに沿った集落ということか「野川（河）」となったのではないかと推定されています。

江戸時代には、野川は上野川村と下野川村とに分けられましたが、明治8年、再び一つの野川村に戻りました。明治22年の市制・町制で宮前村大字野川となり、昭和13年に川崎市に編入されました。

区政施行時には全域が高津区となりましたが、昭和57年の分区により、概ね第三京浜を境に、高津区と宮前区とに分かれています。



毎週、最新ニュースを駅頭でお配りしています。

水曜日 午前7時～8時半 溝口駅南口 / 金曜日 午前7時～8時半 梶が谷駅